

# 探究・校務改革 支援補助金 2025

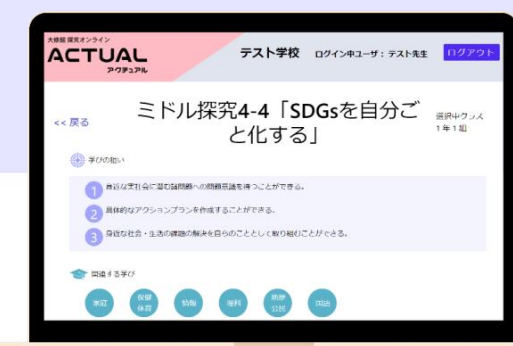
令和6年度補正予算  
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して



ICT×探究を、  
その手に。



## 効果報告レポート

【事業者名】  
株式会社 紀伊國屋書店

【サービス名称】  
アクチュアル  
ジャパンナレッジSchool

【サービスの支援項目】  
カテゴリー1 探究的な学びの高度化 メインサービス

## ジャパンナレッジSchool



2026年1月



# ■ 探究・校務改革支援サービスの概要

## サービス名：アクチュアル

### 1. サービスの概要、特徴

探究学習に特化した中高生向けのオンライン学習サービス。授業準備の省力化を可能にする指導案付きの教材や、先生方の負担を減らし授業を円滑に進める生徒用教材を数多く収録。学習管理もアクチュアル内で完結するため、授業準備から成績処理まで、探究学習に関わる様々な業務の効率化・省力化を支援。

#### (1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

- ・ 1コマから取り組める指導案付きの教材から年間を通じた探究学習をサポートする副読本まで、様々なレベルやニーズに対応した教材を収録。
- ・ 時間数や学力など、それぞれの学校の事情に応じて、教材は自由にアレンジすることができる。

#### (2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

- ・ 数多く収録されている生徒用教材は、全てワークシートや授業展開案が完備しており、授業準備の手間なく探究学習を進められる。
- ・ 学習管理もアクチュアル内で完結するため、授業準備から成績処理まで、探究学習に関わる様々な業務の効率化・省力化を支援する。

#### (3) サービスの活用場面

中学校「総合的な学習の時間」、高校「総合的な探究の時間」、国語・数学等各教科での探究型学習

#### (4) 1サービスあたりの標準販売価格

生徒一人当たり 年間 1,430円(税込) ※利用料に、通信費は含まれません。



### 2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

- ・ 利用開始時に、生徒・教職員向けに利用説明会(訪問)実施。
- ・ 活用サポート:利用中も定期的に操作・授業の両面で、困っている点や課題を解決。
- ・ 授業計画サポート:学校の到達目標や年間計画に合った“アクチュアル”の活用方法を提案。

## ■ 探究・校務改革支援サービスの概要

# ジャパンレッジSchool

## サービス名：ジャパンレッジSchool

### 1. サービスの概要、特徴

中高生の学習に役立つ辞事典、参考書、新書・文庫・雑誌、地図、統計資料など幅広いジャンルの全68種類、1000冊以上を一括検索・閲覧できるインターネットサービス。

#### (1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

- ・ 出版各社が提供する信頼性の高い、質の高い情報を活用することで、情報リテラシー教育を支援。
- ・ 独自検索機能「セマンティック検索」は、生徒が求めるテーマや興味に合った本を見つけるられるようアシスト。

#### (2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

- ・ 幅広いジャンルの確かな情報を横断的に、効率的に収集・活用できるので、情報活用能力が育まれ、探究学習が深化。
- ・ 生徒・教職員が同じ資料・本を手元の端末から同時に利用できることで、授業での一斉利用が可能になり、効率の良い授業運営が可能。

#### (3) サービスの活用場面

教科横断型の探究学習、各教科学習の辞書・参考書・副教材として、進路指導・小論文指導、読書活動など

#### (4) 1サービスあたりの標準販売価格

生徒一人当たり 年間 3,300円(税込) ※利用料に、通信費は含まれません。



### 2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

- ・ 利用開始時に、生徒・教職員向けの利用説明会（対面またはオンライン）を実施。操作方法、活用方法・事例などを具体的なデモンストレーションで説明。
- ・ 利用中に、学校からサービスの利用状況、お困りごと、今後の活用希望をヒアリングし、利用統計をもとに、学校のカリキュラムに沿った活用方法を提案。
- ・ 学校担当者が、校内にサービスの利用を案内しやすいように、ログインガイド、使い方ガイドなどの資料、使い方動画や活用事例集を作成・提供。

## ■ 学校等教育機関の課題と解決策

探究学習で利用する文献資料の質的・量的な課題、生徒の情報活用能力をどう育むか、教職員の教材準備の負担などが課題。

サービス導入により、オンラインで信頼性の高い情報を担保でき、検索精度向上、授業準備効率化を実現。

### 児童生徒・教職員が抱える課題

- ①探究学習で調べ物をする際に、生徒が手軽に検索できるネットの情報を利用する傾向にあったので、情報源が必ずしも正しいとは言えなかった。そのため、教職員のファクトチェックが負担となっていた。
- ②生徒が文献検索の際に、図書館にある書籍だと、分類番号やタイトルで選ぶことが多いので、必ずしも探している文献を選べていなかった。
- ③限られた学校の蔵書では、生徒が利用したい書籍・時期が、重なることがあるので、利用できない生徒が一定数いる。
- ④授業で利用する文献資料は、生徒の人数分コピーして配布をしていたので手間がかかっていた。

### サービスが果たす役割

- ①信頼性の高い情報をオンラインで手軽に探せるので、文献調査の幅が広がり、まずはジャパンレτζSchoolで調べるようにという指導ができることで、ファクトチェックの教職員負担が軽減された。
- ②ジャパンレτζSchoolの独自検索機能「セマンティック検索」を活用することで、生徒自らが、自分の興味に合った文献を見つけることが容易になった。オンライン上ですぐに文献を読めるので、閲覧の自由度が向上し、結果、選書の幅を広げるのに効果的だった。
- ③ジャパンレτζSchoolは、同じ書籍を手元の端末から一斉に利用することができるので、蔵書スペースを増やさなくても、生徒一人当たりの利用書籍数も多くなった。
- ④生徒各自の端末から、いつでも文献資料を閲覧することができるので、紙で配布することが無くなり、授業の準備時間が軽減された。

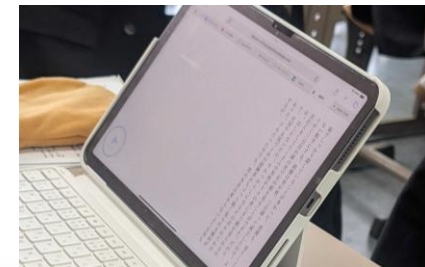
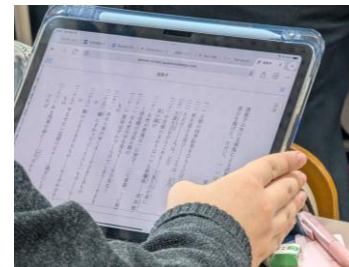
サービスの活用風景・授業の流れ

ジャパンナレッジSchool 活用事例 <学校法人郁文館夢学園 郁文館グローバル高等学校>



言語文化

- 授業テーマ:『枕草子』から考える勤労観(高校1年生)
- ジャパンナレッジSchool搭載の日本古典文学全集、角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックスで読み比べ



授業の効率化



アクセス先URLを共有するだけで生徒が指定の資料をすぐ読むことができ、効率的に関連文献や書籍に当たることができた。

使いやすいUI



読みやすいフォントが生徒に評価された。わからない単語を調べるときに辞書より活用できた。“My本棚”にあるお気に入り・読書履歴機能も便利。

読書活動の推進



興味のある単語で検索し、気になった内容からさらに書籍を読み進めることで、学びを広げることができた。いつでも読むことができる環境を楽しめた。

調べ学習に変化



適切な場所から多くの語句の意味を調べられた。さまざまな分野に対して理解を深めることができ、生徒からもっと使いたいとの声が出た。

進路を考える



書籍を通じて他者の人生・体験に触れることができた。将来の職業、自分のやりたいことの参考にできた。大学受験用に書籍を活用できた。

最新文献はSDGs学習に活用



『文藝春秋論点100』、『ニューズウィーク日本版』、『月間Newsがわかる』にあるカラー写真やわかりやすい解説が教材として使える点は心強い。



活用事例 <学校法人聖和女子学院 聖和女子学院中学校 聖和女子学院高等学校>

事業期間内の活用機会が限られたものの、単元の質の高さは評価され、中高6学年の探究をアクチュアルベースに構成すれば、カリキュラムの一貫性という課題の解決につながると見込まれた。

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	9	学校等教育機関数	11校
--------	---	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	学校法人A学園	A高等学校	東京都	高等学校	1,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な探究の時間、国語
2	学校法人B学院	B中学校	長崎県	中学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な学習の時間、国語、英語、社会 アクチュアル:総合的な学習の時間
3	学校法人B学院	B高等学校	長崎県	高等学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な探究の時間、国語、英語、社会 アクチュアル:総合的な探究の時間
4	学校法人C学園	C高等学校	神奈川県	高等学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な探究の時間
5	学校法人D学園	D中学校	長崎県	中学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な学習の時間、国語、家庭科
6	学校法人D学園	D高等学校	長崎県	高等学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な探究の時間、国語、家庭科
7	学校法人E学園	E中学校	東京都	中学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な学習の時間、国語、英語
8	学校法人F大学	F高等学校	福岡県	高等学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な探究の時間
9	学校法人G学院	G中学校	宮城県	中学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な学習の時間、国語、理科
10	宮城県教育委員会	H高等学校	宮城県	高等学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な探究の時間、国語、英語、社会
11	神奈川県教育委員会	I高等学校	神奈川県	高等学校	1,2,3年	ジャパンナレッジSchool:総合的な探究の時間、国語、英語、社会

# 【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

## 定量的効果検証

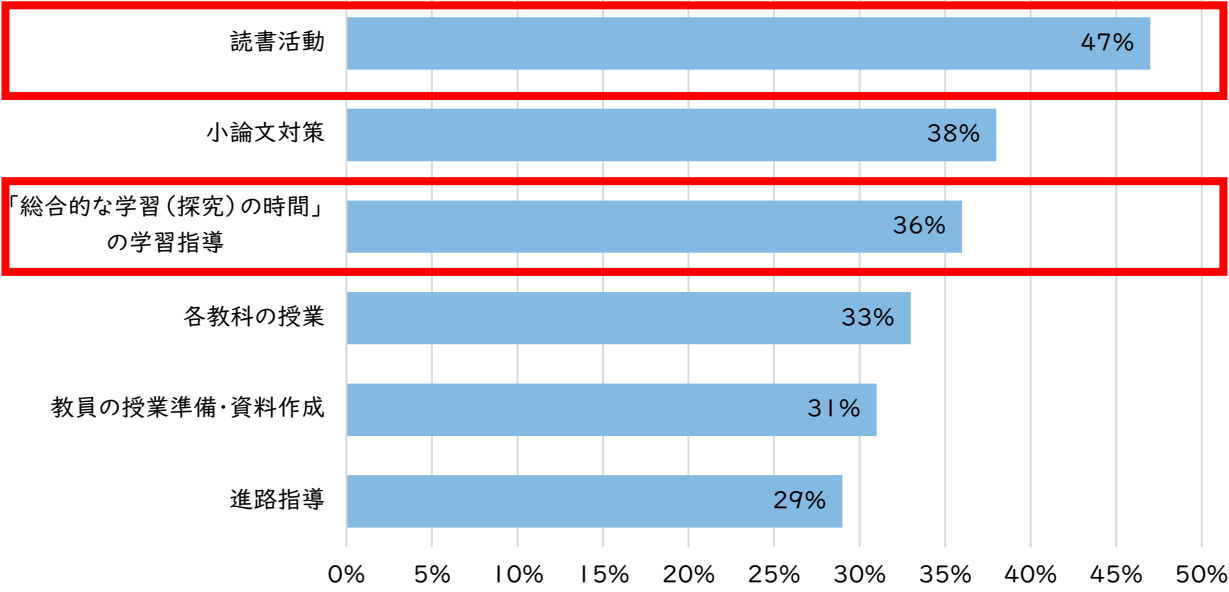
## 教職員

回答数:89名

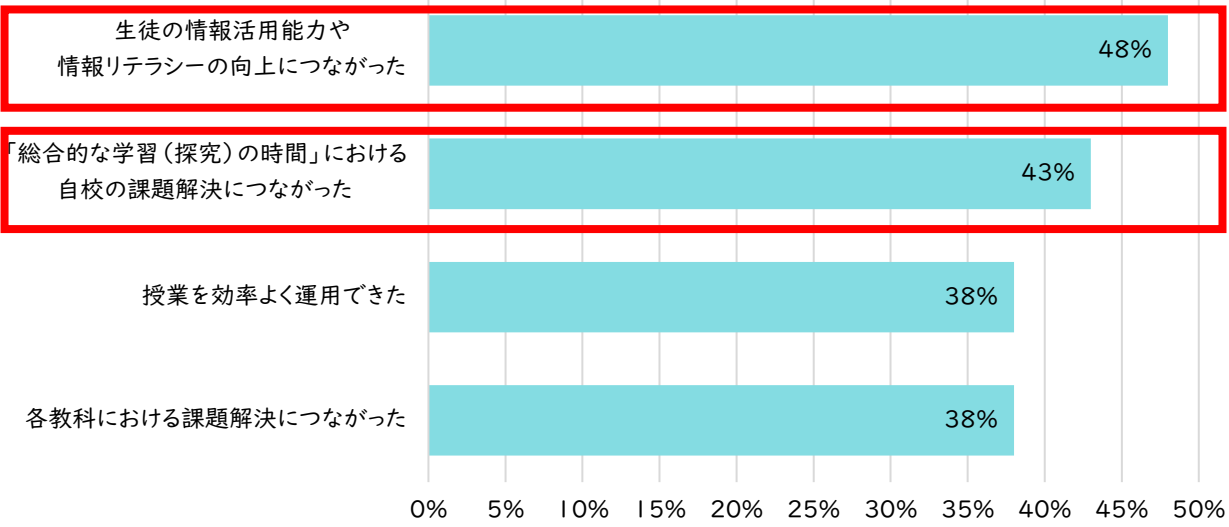
- ・活用場面別では、「読書活動」「小論文対策」「総合的な学習(探究)の時間」の学習指導」と回答した割合が上位となった。
- ・児童・生徒の学び方や教職員の働き方に及ぼした変化としては、約半数が「生徒の情報活用能力や情報リテラシーの向上」と回答。「総合的な学習(探究)の時間」における自校の課題解決」という回答も約4割から得られた。
- ・書籍からなる信頼性の高い情報をオンライン上でいつでも利用できる当サービスの利点が発揮されたと考えられる。

※四択式(そう思う・かなりそう思う・あまりそう思わない・思わない)のアンケートを実施。各設問において「そう思う」「かなりそう思う」と回答した数を集計し、百分率で示している。

活用場面別



児童・生徒の学び方や教職員の働き方に及ぼした変化



# 【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

## 定量的効果検証

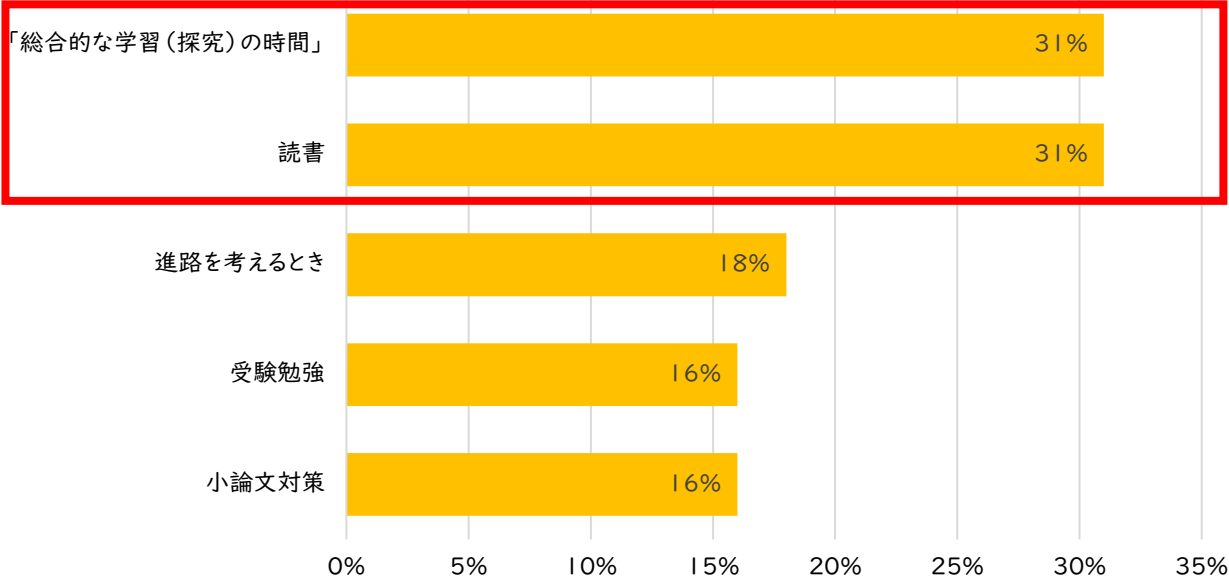
## 生徒

回答数：1370名

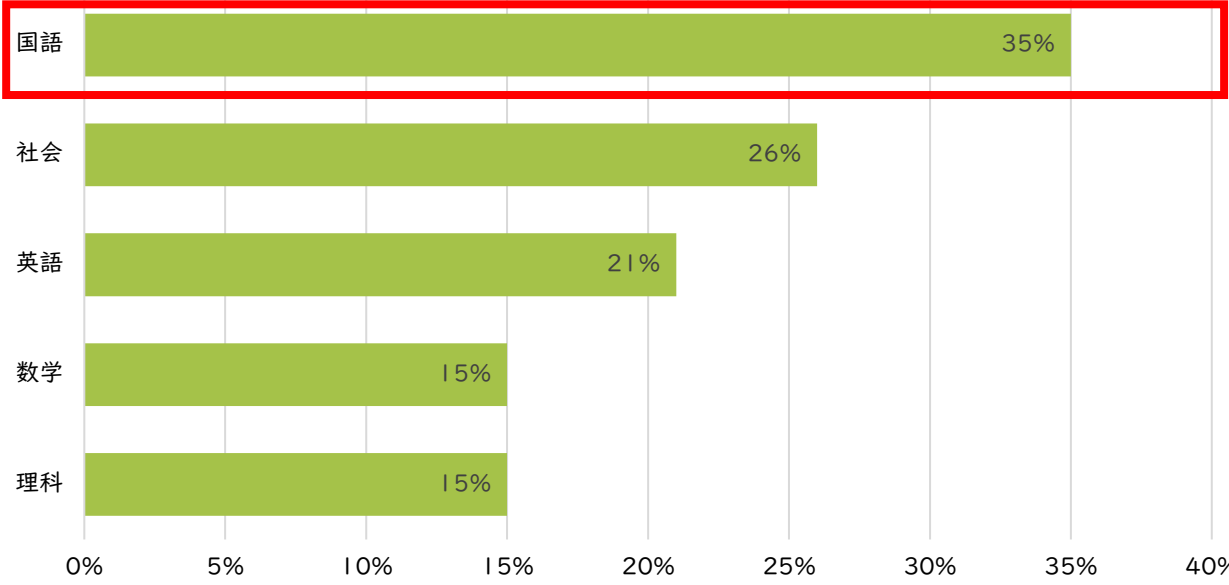
- ・活用場面別では、「総合的な学習（探究）の時間」「読書」と回答した割合が31%と最多であった。
- ・教科での活用場面について注目すると、「国語」が35%と最多、次いで「社会（26%）」「英語（21%）」と回答した割合が多く、文系科目での活用が目立った。
- ・1000冊以上の書籍からなる信頼性の高い情報を、いつでも利用できる当サービスの利点が発揮されたと考えられる。

※四択式（そう思う・かなりそう思う・あまりそう思わない・思わない）のアンケートを実施。各設問において「そう思う」「かなりそう思う」と回答した数を集計し、百分率で示している。

活用場面別



教科での活用場面



# 【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

## 教職員

回答数:89名

### 定性的効果検証

### 【活用場面別】

#### 読書活動

夏休みの推薦図書で掲載されている図書を紹介し、読書を促すことができた。

#### 小論文対策

ニューズウィーク日本版の中から、学部学科に精通する記事をほぼ全て読ませて、小論文・面接対策を行った。

#### 「総合的な学習 (探究)の時間」の 学習指導

セマンティック検索などでまずあたりをつけたり、自身の求める情報が新書などで手軽に探せたり、総合の授業に利用しやすく感じる。

#### 各教科の授業

英語の授業で有名小説の「ラダーシリーズ」を生徒に読ませた。いつでも読める状態で、コピーせずにそのまま最初から最後まで読める点がとても良い。

地理総合の授業で、アルプス特有の農業や牧畜の在り方を調べさせた。具体的かつ専門的な記述に触れることができた。

#### 教員の授業準備・ 資料作成

授業計画について相談を受けた際、ジャパンナレッジ Schoolを使いながらレファレンスを行うことができた。

### 【児童・生徒の学び方や 教職員の働き方に及ぼした変化】

#### 生徒の情報活用能力や 情報リテラシーの向上

信頼度の高いソースとそうでないものを考えるきっかけになった。

#### 「総合的な学習 (探究)の時間」に おける自校の課題解決

わかりやすく活用しやすいツールは、職員集団への指示も通りやすく、同様同質の授業内容を提供するためにも有効であった。

インターネットの情報のみで解決しようとする風潮に風穴を開けることができた。

#### 授業の効率的な 運用

用語解説等をする必要がある際に、ジャパンナレッジ Schoolでの調査に置き換えることで、主体的な学習を引き出すことができる。教員の講義を減らし、生徒の活動を増やすためにはよい。

#### 各教科における 課題解決

生徒一人一人が閲覧できることで、生徒への教材配布についての課題が解消できたことは、授業準備に大いに役立っていた。

生徒の手元に辞書がある状態になるので、その場ですぐに調べさせることや共有することができた。

定性的効果検証

生徒

回答数: 1370名

「総合的な学習(探究)の時間」

発表資料作成時に正しい言葉の意味を調べたり、証明したことの裏付けをする際に活用した。  
総合探究のスライドに一部を引用した。簡単に調べたい情報が出てくるのですごく良い。

読書

歴史の漫画で知識を入れることができるし、本を持ち歩かなくても電車内で読むことができるためとても便利。  
読書で自分の本を読み終わったあとに自分の興味があるテーマに沿って本を読み漁ることができた。

国語

古典や現代文で、辞書で意味調べや類義語・対義語調べに活用した。  
論理国語でディベートの準備のときに、テーマに関する文献を読んで考えを深めた。

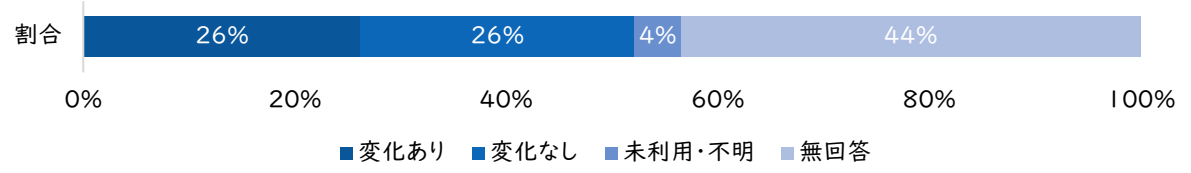
社会

社会で歴史漫画を予習として軽く読んでから授業を受けることで授業の理解に役立てられた。

英語

長文を読む練習のために英語で書かれた本を読んだ。  
例文がたくさん出てきて、「外国語」というタブもあるのでわかりやすい。

【調べ学習における利用前後の変化】



時間短縮・効率化

資料を探す時間が短縮されたので、テンポよく学習を進められるようになった。  
正しい資料かどうかの確認の手間が省けたので、調べ学習の効率が良くなった。

多種多様な資料へのアクセス拡大

いつでもどこでも読めるため、より多くの資料を調べられるようになった。  
調べるコツがわかってより多くの情報を知れるようになった。

情報の信頼性向上

より多くの視点から物事を調べることができ情報の真偽を判断しやすくなった。出典を記載するのが楽になった。  
信用できる資料が集まっており、参考にするものが増え、より深い学習ができたと思う。

## 教職員

- ・ジャパンナレッジSchoolで検索して見つけたあと、書架にあたって紙のほうで読むという流れも自然にでき、図書館としては嬉しい変化だった。
- ・確かな情報源としての活用と、ネットでの検索と比較すると目的達成までの労力が削減できた。
- ・教材研究や考査問題の作成等に際して、事実確認や情報収集のために頻繁に利用させて頂いた。
- ・個々に探究テーマを設定させる際、セマンティック検索が有効であった。ネット検索ではたどり着けないテキストに出会うことができる点を評価したい。
- ・調べ学習時に主体的に学ぶ姿勢が見られた。
- ・教科授業での活かし方、文庫の偏在性が課題。
- ・教科担当者による利用の差が激しい。

## 生徒

- ・時間短縮、情報源が信用できるという理由で、多くの資料を短時間に効率的に学べる。
- ・論文作成をする際に、言葉調べ(言葉の用法の正誤・意味)から日本史の漫画を読むことまで使えた。
- ・さまざまな文献にアクセスできるため、探究の楽しさが倍増したと思う。
- ・進路や受験、朝読の際に自分を考え直す場面で、客観的な視点や他者に自分の意見を言う語彙力がついたと感じた。
- ・発表資料作成時に正しい言葉の意味を調べたり、証明したことの裏付けをする際に活用した。
- ・使い方がわからない部分もあるので、最大限利用するためにも、使い方の方等も知りたいと思った。
- ・もっと種類の多い本や雑誌があったらいいと思った。

学校全体でサービスをどのように活用していくか、サービス導入の際の校内調整をどう進めたら良いかなどが課題。

各校とコミュニケーションをとりながら、各校の実情に合わせた活用提案、校内利用促進資料を作成・配布するなどしてサポート。

### 直面した課題

#### 【1】導入時の課題

学校現場における具体的な活用シーンや授業内での使い方が十分にイメージされず、サービス価値が導入検討段階で伝わりにくい。

#### 【2】実施中の課題

①年間のカリキュラムが固まっている中、年度途中から新しいサービスを利用するための学内調整・授業時間確保に苦慮して利用が進まない。

②ICTサービスを積極的に授業に組み入れたい教職員と紙利用にこだわる教職員と温度差があり、学校全体で統一したサービスを利用する気運にならない。

#### 【3】実施後の新課題

サービスの教育的効果は認識されても、次年度以降の予算確保が難しく、継続利用や長期契約につながりにくい。

### 解決するための改善策

#### 【1】導入時の課題解決

利用開始時に教職員向け説明会を実施。具体的な活用方法を教科別、活動別に紹介。他校の活用事例を紹介することで、利用イメージを膨らませてもらった。

#### 【2】実施中の課題解決

①各学校ごとに、カリキュラムのどの部分で活用できそうかヒアリングして、学校の事情にあわせた活用方法を提案。担当教職員が、校内でサービスの利用促進をしやすいよう、利用ガイドや活用事例集を作成して配布いただく。

②まずはサービスを活用できそうな教科から、紙とICTのハイブリッドで、それぞれの良い点を活かしながら利用いただくことを提案。

#### 【3】実施後の新課題解決

新たな予算を創出するのは難しいので、紙書籍の副教材、参考書などをサービスにあるコンテンツで代替できるか検討いただく。

## ■会社概要

社名	株式会社 紀伊國屋書店
代表	代表取締役会長 高井 昌史 代表取締役社長 藤則 幸男
設立年月	昭和21年1月16日
本社	目黒区下目黒 3-7-10
資本金等	3,600万円
売上高等	1,407億円 (2025年8月期 連結決算) 1,043億円 (2025年8月期 単体決算)
従業員数	5,000名
事業内容	和洋書籍・雑誌・事務機器・文房具・情報文献・視聴覚教材・教育設備の販売、出版、映像商品・書誌データベース制作、ホールの経営など

## ■お問い合わせ窓口

担当:株式会社紀伊國屋書店 学校教育営業部

電話:03-5719-2501

Mail:school@kinokuniya.co.jp

